

日本工営株式会社

2016年10月21日

カイロ地下鉄4号線第一期整備事業に係るコンサルティング業務の契約調印を行いました

日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、社長：有元龍一）は、2016年10月9日、カイロ地下鉄四号線第一期整備事業に係るコンサルティング業務の契約調印を行いました。

エジプトの大カイロ都市圏では、人口や自動車台数の急増に伴う交通量の増加に対して道路整備が追いついておらず、交通渋滞が慢性化しています。一方で、バスや鉄道など公共交通の輸送能力は限界に達しており、用地不足による道路網の拡大も困難な状況にあります。地下鉄の整備が課題となりますが、地下には水道管網や電線網が複雑に埋設され、さらにカイロの地下は古代・中世の遺跡の宝庫であるため、開発と保全を両立させる難しい工法が求められています。

本事業では、我が国ODAの本邦技術活用条件（STEP）を適用し、日本の鉄道技術を活用して、大カイロ都市圏の南西部に位置するカイロ中心部からピラミッド地区を結ぶ地下鉄（17駅、約19キロメートル）を建設します。これにより、深刻化する交通渋滞の緩和を図ることで、エジプト経済の発展に大きく貢献するものです。

契約期間は9年間で、日本工営とグループ会社の日本シビックコンサルタント、その他3社のJVで入札支援・補助・契約（案）の作成、施工監理、運営・維持管理の監督・支援を行います。JV全体の契約金額は141億円で、そのうちの約100億円が当社グループでの受注となります。

本事業の特徴は以下の通りです。

- (1) 400メートルに及ぶナイル河を横断する全線地下路線であり、その大部分がピラミッド通りと呼ばれる1日当たりの交通量約8万台の幹線道路下に建設される。
- (2) シールド工法の採用
 - ① 狭い空間や近接する施工区間では、単線シールドを縦2連に配置する線形を採用し、用地取得面積や既設構造物への影響を最小限に抑えている。
 - ② 日本の先進技術である地表面沈下を最小限に抑える機構を装備し、掘削しながらセグメントの組み立てができるシールドマシンを採用。
- (3) 日本の高い防災基準を適用し、利用客の安全を確保する。

当社は、中期経営計画（NK-AIM ～世界で進化（Advance）日本で深化（Intense）発揮する真価（Merit））において鉄道等の交通・運輸分野、空港・港湾分野の強化を掲げています。今後とも、総合技術コンサルタントとしての強みを活かし、周辺の都市計画も視野に入れ、幅広いコンサルティングサービスを提供していきます。

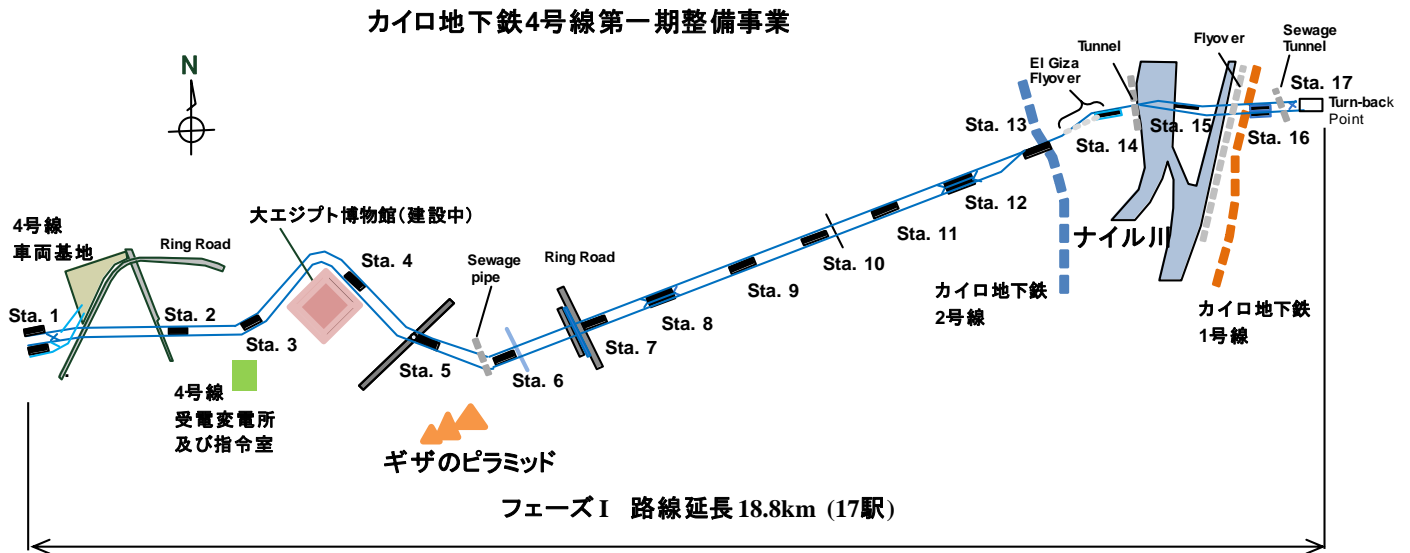
—お問合せ先—

日本工営株式会社 総合企画部 コーポレートコミュニケーション室

TEL : 03-5276-2454 Email : info@n-koei.co.jp ホームページ : <http://www.n-koei.co.jp/>

■本調査の概要

案件名：	カイロ地下鉄4号線第一期整備事業に係るコンサルティング業務 (General Consultancy Services for Greater Cairo Metro Line No.4 Phase I Project)
発注者：	エジプト国運輸省トンネル公団 (NAT : National Authority for Tunnels)
業務の概要：	土木工事 (2 工区)、鉄道システム、車両の4つの事業工区に係る ①入札支援・補助・契約 (案) の作成②施工監理③運営・維持管理の監督・支援
契約額：	141 億円 (内、日本工営グループ約 100 億円)



■調印式の様子



契約調印する日本工営株代表取締役社長 有元龍一 (写真右) と
エジプト国運輸省トンネル公団長官 (写真左)

以上

—お問合せ先—

日本工営株式会社 総合企画部 コーポレートコミュニケーション室

TEL : 03-5276-2454 Email : info@n-koei.co.jp ホームページ : <http://www.n-koei.co.jp/>